令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【三室小】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 国語では、どの学年においても主語と述語に関する問題についての正答率が低い。 <指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒	主語と述語に関する指導内容の系統性を明確にし、各学年毎におさえるべき内容をデータにまとめ、年間指導計画に別紙として綴じ込む【5月まで】。上記の点を踏まえ日々の指導の改善に努めるとともに、児童が振り返りを書く際に、主語と述語を明らかにしながら書くことを全教科で徹底する【年間・R6年度さいたま市学習状況調査「文の中の主語と述語の関係を理解することができる」の質問項目において、市の平均を上回る】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語では、「読むこと」において、作者の心情やその場の情景について描写を基に捉えたり、目的に応じて中心になる語や文を捉えて読んだりすることに課題がある。 <指導上の課題> 読書活動に取り組む時間が、市の平均と比べて少ない。また、授業において児童が読み取ったことを自己表現する機会を十分に確保できていない。	⇒	日々の読書タイムの時間を確保し、学校生活において読書に取り組む習慣を育成する【年間】。学校課題研修と連携してICT機器を効果的に活用し、児童が読み取ったことを伝え合い、考えを広げたり深めたりする場面を設定する【年間・アンケートにおいて、肯定的回答割合80%達成】。

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	算数では、「数と計算」の領域において課題がみられた。除数が小数であるとき、除数が小さい数になった時の不正解率が高い。除数と商の大きさの関係について理解が不十分な児童が多いと考えられる。計算の仕方だけでなく、「なぜその答えとなるのか」を考えたり説明したりする活動を重点的に取り入れていきたい。
思考・判断・表現	国語では、自分の考えをまとめる記述式の問題形式において課題がみられた。しかし、本調査における「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の項目においては、肯定的な回答の割合が93.2%であった。今後、そのような学習活動の時間を確保することだけでなく、学びを深めるために協働的な学びの時間を確保するなど、質の向上に努めていきたい。

③ 中間期報告 / 中間期見直し

	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	別紙の作成とともに、「円滑な接続のための留意事項」の欄にも追記を行った。今後は更に全教科の学習（特に、国語、社会）を通して、主語・主体を明確にしながら教員が授業を構成することに努めていく必要がある。	変更なし
思考・判断・表現	B	各学年の発達段階に応じて、毎日の読書タイムの時間を確実に確保できるようになってきた。 ICT機器の効果的な活用については、活用のねらい・児童の発達段階に応じて、単元の中で計画的に位置づけられるように努めている。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	主語と述語に関する問題では、正答率の上昇が複数学年でみられた。しかし、まだ充分ではない学年もある。国語科だけでなく他教科等においても、系統性を踏まえ、主語・述語を大切にした授業を展開していく。
思考・判断・表現	「読むこと」の問題においては、どの学年も課題がみられた。しかし、無解答率はすべての学年において市の平均より低くなっており、粘り強く問題に取り組んでいる様子がうかがえる。国語科を中心に、叙述を基に根拠を明確にして文章を読んだり、考えを伝え合ったりする学習活動をさらに充実させていきたい。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	各教科等で振り返りの場面など「書く活動」を多く取り入れることで、「知識・技能」が確実に定着しているかをみとり、個に応じた支援を行うことができた。また、令和6年度さいたま市学習状況調査の国語「文の中の主語と述語の関係を理解することができる。」を問う設問においては、大きく改善傾向がみられた。
思考・判断・表現	B	各教科等の学習や日々の読書活動をベースに、「言葉」に着目して文章を読むことへの意識を高めることができた。また、自分の考えをさまざまな形で表現する機会を多く設定することで、市学習状況調査「生活質問調査」項目39において、肯定的回答割合が9割を超え目標を達成した。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	昨年度の結果と比較して改善傾向にあるが、未だ課題が残る学年もある。また、知識・技能の定着においては個人差も大きく、充分に定着している状況には至っていない。ドリルパークの活用や、自分に合った学び方の選択など、個別最適な学びの充実を図りながら授業を構成していく。
思考・判断・表現	自分の言葉で表現する力を身に付けることができるように、じっくりと考えたり自分の考えをまとめたりする時間を充分に設け、授業改善を行っていく。また、単元や授業のねらいを達成するために、どのようにICT機器を効果的に活用するべきか、引き続き学校課題研究と関連づけながら研鑽を図っていく。児童の発達段階に応じた、ICT機器の意図的・計画的な活用の仕方についても、その系統性を明らかにしていきたい。